

## 28 養液栽培システムの導入

○水稲育苗ハウスの未使用期間や遊休ハウスを有効的に活用します。

### <養液土耕栽培システムのポイント>

- 自動で施肥、灌水を行うため、減肥・作業省力化がはかれる。
- 精度の高い混入機や点滴チューブを使用することで作物の生育が揃いやすい
- 施肥をシステム化することにより、経験が浅くてもマニュアルに沿って栽培を進めることができ、安定収量が見込める。
- 育苗ハウスの未使用期間を有効活用するため、養液土耕栽培システムを活用したコンテナ等の隔離栽培を推奨している。



育苗時期  
(冬～春)



活用時期  
(夏～冬)

### <ういずOneの商品構成>

- 液肥混入機「ミニシステム」、灌水チューブ
- 栽培槽「プラスBOX」
- 園芸培土・パーライト
- 液肥(1液式・2液式)



- ネタフィムジャパン(株)の液肥混入機「ミニシステム」で灌水管理
- 液肥は1液式と2液式から選択

### <OATアグリオ製システムの商品構成>

- 液肥混入機、灌水チューブ
- 栽培槽「球根コンテナ」
- 養液土耕システム専用培土
- 液肥(1液式)

